

おかげさま



『示時偈』という自戒の言葉があります。その中に、「自分の居場所はいつでも綺麗にしている。お仏壇のお掃除もしようよ。」という言葉があります。毎日できなくても、たまには掃除しようよ。

「お仏壇のある風景」という文章を見てください。

「仏さまはお昼寝？ 佐々木義英」



テレビドラマなどをみておられますと、しばしば、お仏壇のある部屋が映し出されることがあります。そうした時には、決まって、おもむろにお仏壇の前に座り、お鈴をチ〜ンと鳴らして、合掌するという演出がされています。なかには、合掌しながら、「どうかお守りください」というふうに、願をかけているような光景もあります。

さて、私たちは、これらの様子をどのように捉えたら良いのでしょうか。

まず、お鈴を鳴らすという行為について考えてみましょう。お鈴を叩いて鳴らしているシーンは、まるで仏さまが、すやすやとお昼寝をなさっていて、それを起こそうとしているような印象を受けられるのではないのでしょうか。もちろん、お昼寝をなさっているはずがありませんから、こうした振る舞いは、何とも失礼な行為です。

お仏壇にそなえつけられているお鈴は、「勤行（おつとめ）」の始まりや終わりなどを、その場にいる方々に告げるためのものです。お寺にも、お鈴の他に、いろいろな打物がありますが、それらは、僧侶をはじめ、お参りしている方々に、さまざまな合図を送るためのもので、仏さまに気づいてもらうために鳴らすものではないのです。

それでは、合掌しながら、「どうかお守りください」といって、願をかけているシーンについて考えてみましょう。願をかけるということは、お仏壇にいらっしゃる仏さまに向かっ

お寺の仏具磨き

10月21日午前9時

樹覚寺本堂

多くの方のお手伝いをお待ちしています。





て、私の方から、お願いをしているということでしょう。

ところで、ご絵像やお木像の阿弥陀様は、どのようなお姿をしていらっしゃるでしょう。お立ちになっているのではないのでしょうか。そのわけは、『仏説観無量寿経』というお経のなかに説かれています。それは、煩惱に振り回されて、どうすることもできない私たちをご覧になって、じっと座っていることができず、阿弥陀仏の方から、歩み寄ろうとなさっているお姿である、ということです。

お仏壇に向かって、願をかけるという行為は、このような阿弥陀仏のお姿を忘れて、自分の思いを押し付けているということになるでしょう。私たちは、阿弥陀仏のはたらきのなかで、人生を歩ませてもらっているのです。お仏壇の前に座ると、そのおこころを思い起こして、感謝の気持ちから、お念仏するという姿こそ、阿弥陀仏の願いにかなった姿勢といえるでしょう。



奔んなの作品展 《開催される！》

秋のお彼岸に、あけし会館に寄つてみましたか？

奔んなの作品展《を》ご覧になりましたか？

多くの皆さんの自慢の作品が並べられています。

お彼岸にお参りに来られた人たちが、お茶休めを

したりしながら、素敵なお作品を鑑賞していました。

次は春のお彼岸に開催されます。あなたの作品、家

族の方々の作品、ぜひ出展してみませんか。

ジャンルは問いません。

書篆刻刻字 絵画 手芸 写真 切り絵 ちぎり絵

切手や鉱物などの収集作品 竹細工 折り紙 思い出

出のコレクション 各種アート作品……。

次回、来春の彼岸、ふるつでの参加をお待ちしていま

す。

お互いの技術の紹介意見交換の機会のワークショップ

プモしたいな。



住職の孫 (幼稚園年長) の作品
元気いっぱい、
名前がしいね！
誰だ！住職の字おもしろって！

あけし酔話

お釈迦様の生涯 《 伝 道 》

インドでは四～五月が最も熱く、気温は四十度を軽く超えます。六月に入るとモンスーンが押し寄せ、雨期に入ります。日本の梅雨に似ているようですが、スケールがまるで違います。

連日のようにさまざま集中豪雨があり、各地で洪水の被害が続出し、多数の人命が失われることも決して珍しくはありません。この雨期は九月まで続きます。

お釈迦さまやそのお弟子さんたちも、この雨期の間は遊行せず、一か所に滞在して

もっぱら勉強に励みます。これを“雨安居”と呼んでいます。

雨安居の時期以外は、文字通り各地を遊行して、教えを伝え続けられました。

指導的立場にある人びとを論破し、教えを伝えられ、その人びとが弟子ともどもに帰依することがあるなどして、お釈迦さまの教団はみるみるうちに増大していきました。

「対機説法」「応病与薬」といわれるように、その人に応じて教えを説いたので、ただちに帰依する人が多くいたのでしょう。

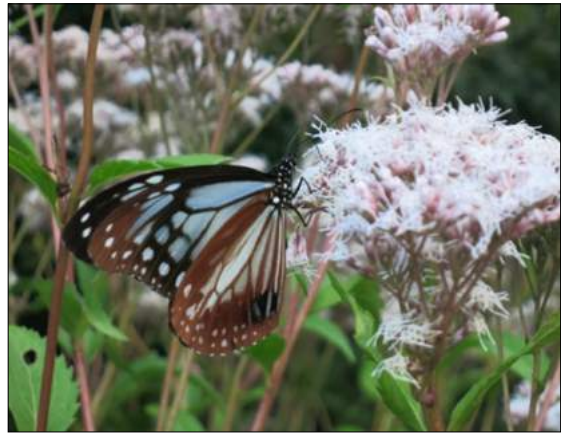
また、「同じ道を二人して行くな」と示されるように、お釈迦さまだけではなく、弟子一人ひとりも教えを伝えていったので、各地へと教えの輪は急速に広がっていきました。(続く)





あけし あれこれ

ふじばかま (藤袴)



フジバカマ (藤袴) キク科

「別名」 蘭草、香草、香水蘭、らに

秋になり、お月さまがきれいに見える頃に、密やかに静かに咲く渋い花、秋の七草の一つ。

「ふじ」は花の色を指し、「はかま」は筒状の花を散房状に咲かせ、身に帯びる意。

いい香りとは言い難いが常に身につけていると、邪気を払うということから出たという説がある。香りは茎を乾かすと香るらしい。ラワンデル油のような香り、ラワンデルとはラベンダーのこと。一度試してみないといけないかなと思う。今は自然に生息している花は減少している。

藤袴が咲くと、アサギマダラという大型の蝶がどこからともなく、飛んできます。

十五夜は10月4日でした。

十三夜は11月1日です。

十日夜は11月27日です。

